

# 『ゲームセンターあらし』がどきどきするまで

終戦

すがやみつる、静岡県富士市に生まれる  
小説映画・マンガなどで忍者ブーム

50~60年代前半は貸本マンガや月刊マンガ誌に親しんでいました。



『週刊少年サンデー』『マガジン』創刊。少年誌を中心に戦記もののブーム・プラモデルブーム起る

60年代前半、日活無国籍アクション(映画)

娯楽映画といえば、ハリウッドでなく日活アクションでした。



■福本和也・峰大『黒い秘密兵器』(魔の秘球など)。63年連載開始

戦記ものの直撃世代です。小松崎茂や、少しのちの松本零士の“うまい絵”に憧れました。第二次大戦中の軍用機ばかり描いていて、初めてつくったプラモデルも九七式艦上攻撃機でした。小学5年生の時、大藪春彦の小説にも登場する拳銃・ルガーP08のモデルガンを買ってもらいました。



60年代半ば、職業としてのマンガ家を目指す  
貸本マンガの、園田光慶のシャープな線のアクションに惹かれる

フリーハンドで描かれる効果線が素晴しかった。



■梶原一騎・川崎のぼる『巨人の星』(消える魔球など)。66年連載開始

魔球もの、スポ根ものの“大げさな表現”に影響を受けました。



江波譲二のアシスタントを経て、石森プロに入社

■矢口高雄「鮎」(短編、70年)、『釣りバカたち』シリーズ(72年連載開始)

石森章太郎原作のTVシリーズのマンガ化である『仮面ライダー』でデビュー

石ノ森先生や手塚治虫先生、ジョージ秋山先生のように、シリアスなストーリーものからギャグまで、なんでも当然のようにできるのがマンガ家。そう考えている、最後の世代かもしれません。

『あらし』でゲームをやるのに空中を飛ぶなんて、さすがに描けない、と思ったけど、編集者に『仮面ライダー』での経験があるでしょうと言われ、やってみたら描けた。



■牛次郎・ビッグ錠『釘師サブヤン』(71年連載開始)

スポ根的なものと趣味的なものとの融合。職人どうしの対決。『あらし』連載にあたって真っ先に思い出し、直接の参考にした作品です。同じコンビの『包丁人味平』も再読しました。『サブヤン』は、パチンコの盤の内側からプレイヤーを描くなど、表現技法の面でも大いに学んでいます。



少年サンデーに載った『鮎』は、事細かに、鮎をどう釣るかが描いてあり、驚きました。ホビーというか、趣味的なものでもマンガになる、と気づかされた最初の作品。



70年代講談社「テレビマガジン」や小学館の学年誌に、『ラジコン探偵団』ほかのちに『ホビーマンガ』の先駆と位置づけられる作品を執筆

■滝沢解・ふくしま政美『女犯坊』(74年連載開始)

ふくしま作品は肉体美が凄かった。あらしの敵役の筋肉描写などは、『女犯坊』に影響を受けました。



『ラジコン探偵団』で主人公のラジコンの機種をポルシェ934にしたのは、前作の『マシン刑事999』で同じ車種(実車)を出していたから。車マンガを描いてレースも行っていたので、メカの動きというものを面白く感じていました。



■車田正美『リングにかける』(77年連載開始)

スポーツマンガでド派手なアクション。宇宙規模のボクシングシーン。同時代的に意識し、『あらし』の参考になりました。



小学館『コロコロコミック』、季刊で創刊(78年隔月刊化、79年月刊化)すがや、SFマンガ『まぼろしの恐竜』で同誌初登場(No.3)70年代後半 SFブーム、アニメブーム

タイトル「スペースインベーダー」大ヒット、インベーダーブーム

『コロコロコミック』No.9『ゲームセンターあらし』読切り掲載

同誌No.10よりF1レーサーの少年が主人公の『F・1キッド』連載開始

編集者とアシスタントたちとで、新宿のゲームセンター取材を敢行しました。



アンケート1位を獲得、本誌連載が決まりました。



『コロコロコミック』春の特別増刊号で読切り『ゲームセンターあらし』掲載

『コロコロコミック』8月号・No.16に『あらし』が読切りと銘打たれて掲載されたが、翌月号からすぐに連載化

モスクワオリンピック開催

この前後、『東京スポーツ』紙を愛読。“ムーンサルト”などスポーツの技の名称を、あらしの必殺技のネーミングに役立てました。



最初の2話は『F・1キッド』と並行連載。こちらは終わらせざるを得ませんでした。『あらし』は当初、根性もののバリエーションだと思って描いていました。



『別冊コロコロコミック』創刊(『あらし』も掲載)

4月、『ゲームセンターあらし』TVアニメ化

『コロコロコミック』No.9『ゲームセンターあらし』の企画を立てる

仕事が忙しくなり、アシスタント出身の池田淳一に企画を譲り、池田オリジナル作品に。『コロコロコミック』の、玩具をフィーチャーしたホビーマンガ路線の初期成功作となる

描き下ろし『こんにちばマイコン』(小学館)刊

ホビー用パソコンNEC PC-6001を用いた入門マンガで、同機種は『マイコン電児ラン』にも登場

『あらし』と『こんにちばマイコン』で第28回小学館漫画賞を受賞する



1983

1980

1975

1970

1965

1960

1950

1945